

# 経営比較分析表

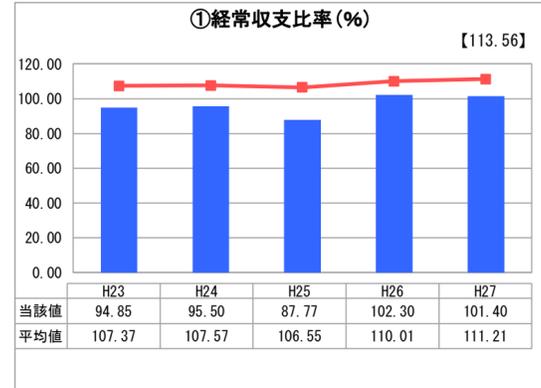
石川県 中能登町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	65.58	99.25	2,862

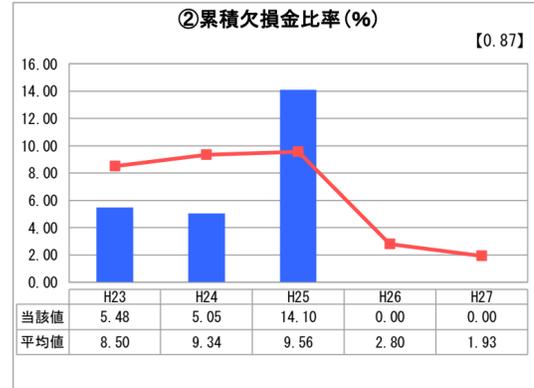
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
18,717	89.45	209.25
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
18,479	34.86	530.09

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成27年度全国平均

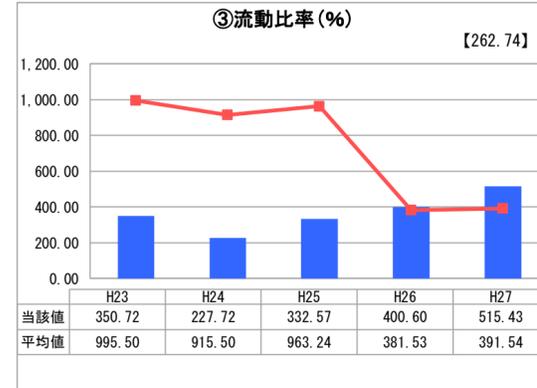
## 1. 経営の健全性・効率性



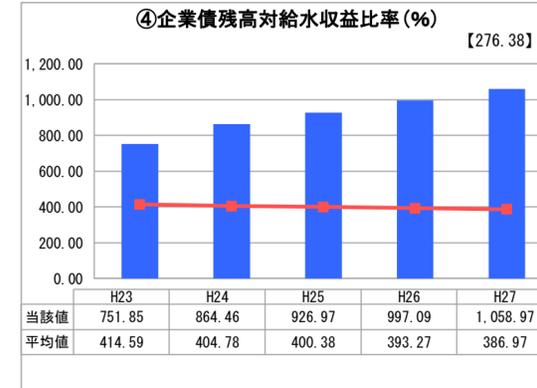
「経常損益」



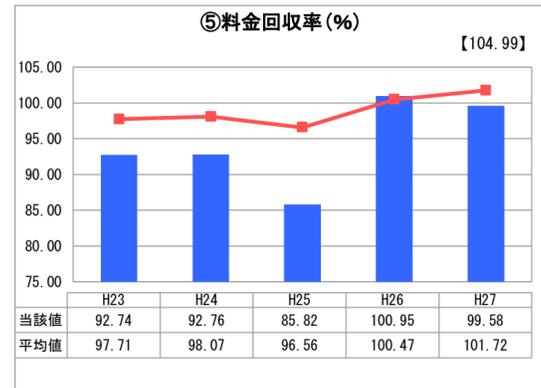
「累積欠損」



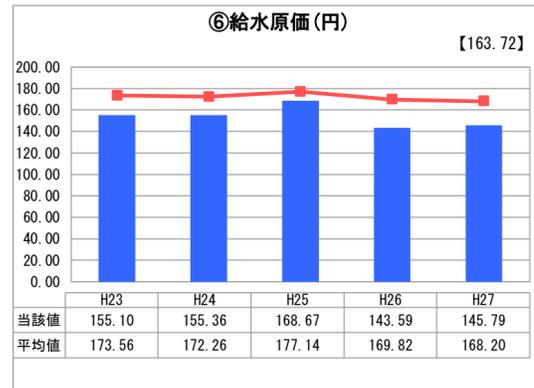
「支払能力」



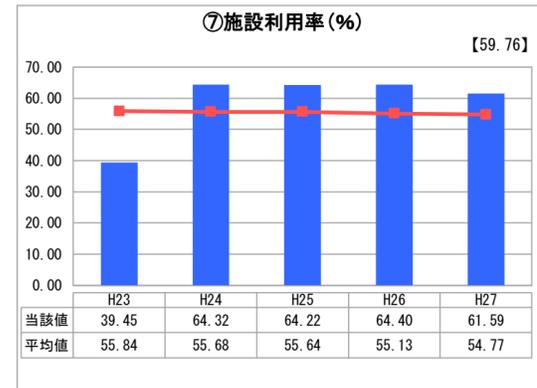
「債務残高」



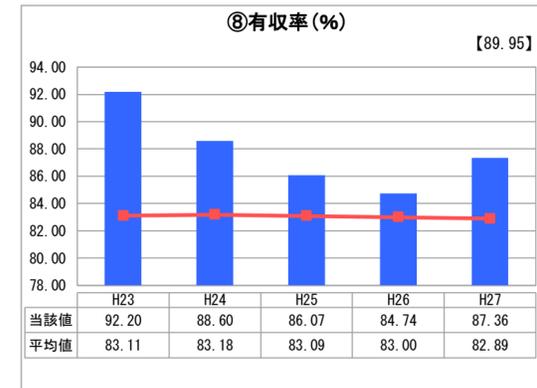
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

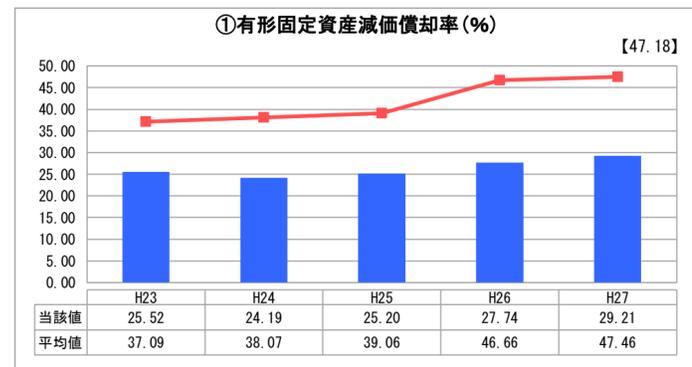


「施設の効率性」

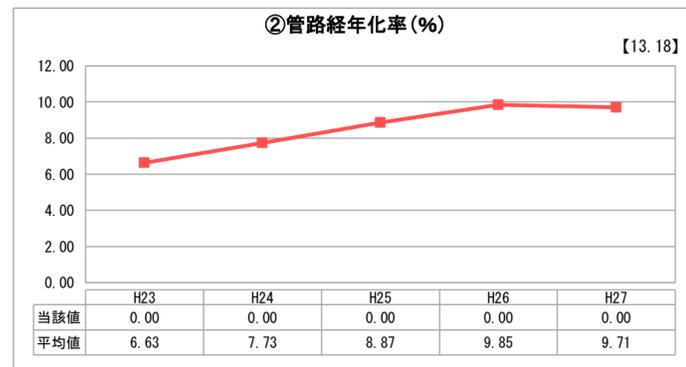


「供給した配水量の効率性」

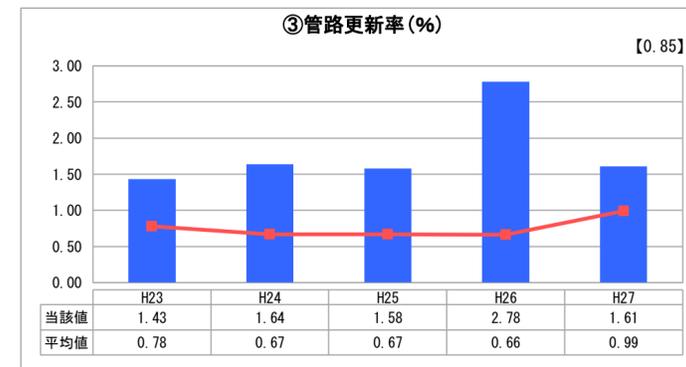
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率：人口の減少に伴う有収水量の減により年々減少傾向にあるが、今後は繰出基準内繰入金が見込まれるため、ほぼ横ばいで推移していくと見込まれる。
- ② 累積欠損金比率：繰越利益剰余金等を上回る欠損金はないと見込まれる。
- ③ 流動比率：横ばいで推移していくものと見込まれる。
- ④ 企業債残高対給水収益比率：給水収益は年々減少傾向にある年々増加傾向にあるが、投資計画は適正であると判断できる。
- ⑤ 料金回収率：今後は更なる費用削減等の検討が必要と考える。
- ⑥ 給水原価：今後は更なる費用削減等の検討が必要と考える。
- ⑦ 施設利用率：人口の減少に伴う微減と考えられるが、施設の統廃合によりH24年度以降は60%を超える数値となっているため、適切な施設規模と判断できる。
- ⑧ 有収率：老朽管更新事業による配水管布設替工事等で使用した作業用水や漏水も考えられるが、老朽管更新事業は継続事業として計画的に行っている。有収率は改善していくものと見込まれる。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率：微増しているものの、老朽管更新事業を計画的に進めているため、横ばいで推移していくと見込まれる。
- ② 管路経年化率：法定耐用年数を経過した管路はなく、管路の更新が適正と判断できる。
- ③ 管路更新率：前年度より数値は低いものの、老朽管更新事業を計画的に進めているため、投資計画は適正と判断できる。

## 全体総括

経営の健全性・効率性及び老朽化の状況それぞれを見ても、ほぼ適正な水準を保っていると見受けられる。しかしながら、人口の減少に伴い有収水量は年々減少傾向にあり、給水収益は伸び悩んでいることから、適正な施設の維持管理に努め漏水の対策も講じる必要があると考える。なお、平成29年度に策定予定の経営戦略では、投資及び財政計画に沿った経営基盤の強化及び財政マネジメントの向上に取り組む。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。